



〔事例報告〕

九州大学21世紀プログラムにおける 提出資料と評価方法

林 篤裕

(九州大学 高等教育開発推進センター
& アドミッションセンター)

(21世紀プログラム基幹教員)

e-mail: hayashi@rche.kyushu-u.ac.jp



概要

総長1・理事8・監事2 計11名

学部 11 (+1)
大学院学府 18

附置研究所等 4
附属図書館 1 (分館5)
(蔵書約400万冊)
病院 1 (約1,400床)
全国共同利用施設 1
学内共同教育研究施設 32
機構 4

2009年5月1日現在

学部学生 11,713名
(女子 3,468名)
大学院生 6,843名
(女子 1,775名)

外国人留学生
1,509名 (81ヶ国・地域)
学生の海外留学 2009年度
154名 (23ヶ国・地域)

教員 2,186名
教授 719名
准教授・講師 748名
助教他 719名

事務・技術職員
2,600名

学部卒業
約12.7万人
修士修了
約4.1万人
博士学位
約2.4万人

土地 約75km²
福岡、長崎、熊本、
大分、宮崎、鹿児島、
北海道

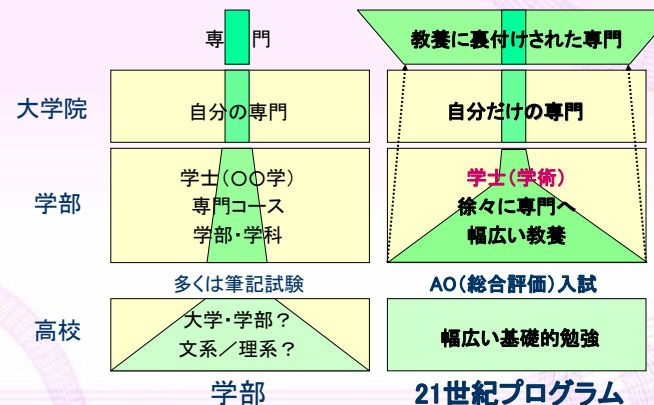


21世紀プログラム：教育の枠組み

2003年度 文部科学省の「特色ある大学教育支援プログラム」に採択



21世紀プログラム 専門を決める



アドミッションポリシー

◆プログラムの理念

- ◆ 21世紀を担う人材の育成
- ◆ 専門性の高いゼネラリスト
- ◆ 創造を引き出す知識と基礎的な知識
- ◆ 「外」に開かれた知識

求める学生像

- ◆ 自ら今日的な諸問題を発見し、これらを解決するための課題を設定し、その深い解明をめざして学習しようとする自主性があること。
- ◆ 文系・理系にこだわることなく、広い分野の学習を進めながら関心の幅を広げ、総合的な探求の能力を高めることによって、自らの能力を最大限に発揮して行こうとする意欲があること。消極的な意味で自らの専門を決めることができないというのではなく、あれもこれも学びたいという積極的な意欲があること。
- ◆ 学問を深く学ぶために、必要な基礎的な能力を身につける努力をいとわず、積極的に学習を進めることができる意欲や能力があること。
- ◆ 現代の政治や社会、歴史や文化、自然などに関する基本的な知識など一定以上の「教養」を身につけていること。特に戦後から現在までの現代の国内・国外の問題について関心があること。
- ◆ 海外留学ができるための相当の語学力を身につけることに意欲があること。

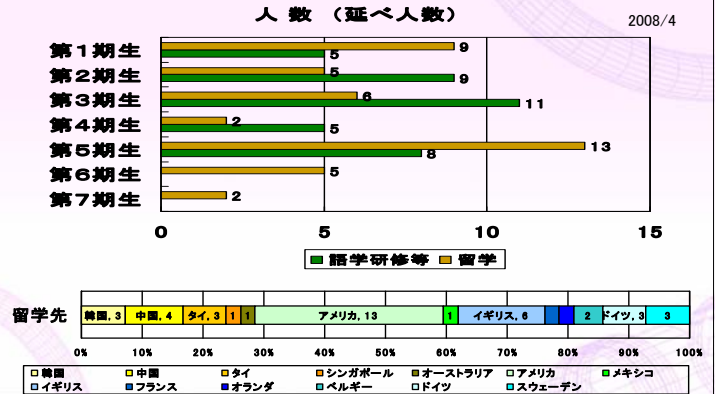
21世紀プログラム 第1期生の履修

	学生	文	教	法	経	比	言	理	医	業	工	芸	農	学部	計	
専門型	f													49	1	49
	t	2						2		2				61	4	67
	u	7	2	42	2										4	53
	c	6	8	70	6				2						5	92
	b	11	44	4											3	59
複合型	a		38	14	2										3	54
	e	4	2	22	2									2	5	32
	l	10			2						26	1		2	5	41
	m	12			4	6								38	4	60
	g	18		12											2	30
	p	23	12		2						2				4	39
	d	28	2		10						6			2	5	48
	q	12	22	4											3	38
	i	10	20	4	2										4	36
	j	4	4	6	22										4	5
ゼネラリスト型	o	4			10	20								8	4	42
	k	10	12	2				2		28				5	6	59
	s	4	8					6		5				21	5	44
	h	10	8	8	20										5	48
	n	14			6			10		2				4	4	34
	r	14		10	8										5	36

留学 卒業研究 比:比較社会文化研究 言:言語文化研究院

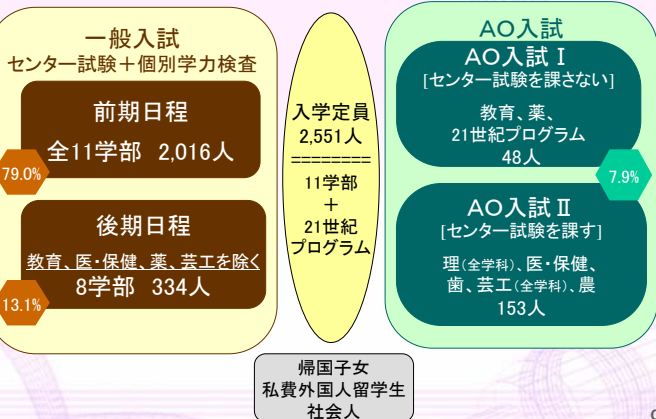
7

21世紀プログラム 留学・語学研修等



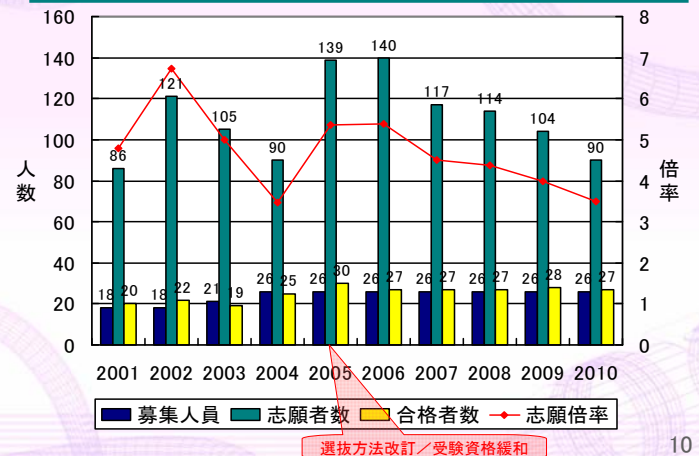
8

九州大学 2010年度(平成22年度) 入学者選抜



9

21世紀プログラム 志願者数の推移



10

第1次選抜

- ◆ 出願時提出資料
 - ◆ 志望理由書(2面)
 - 志望する理由、自己の適性や抱負
 - ◆ 調査書等(内申書): 中等学校の取り扱いは?
 - ◆ 活動歴報告書(2面): 中学からの活動を記載可
 - 各種活動、表彰、資格等
- ◆ 第1次選抜: 書類審査
 - ◆ 「AP」や「求める学生像」との合致度合を評価
 - ◆ A~Dの4段階(活動歴報告書は3段階)
 - ◆ 4名で評価
 - ◆ 順位(後述)の高いものから3倍程度に絞る
(今年の例では80名。3.1倍)

11

21世紀プログラム 第2次選抜

第1日目(土曜日)

9:30-11:30	講義1・レポート1 (120分)	軸が違う3テーマ 講義:約50分 レポート:約70分
12:30-14:30	講義2・レポート2 (120分)	
15:00-17:00	講義3・レポート3 (120分)	講義や資料に 英語を含むことがある

第2日目(日曜日)

9:00-11:30	討論 (150分)	グループで実施 3つの講義に 関する討論
12:30-17:00	小論文 (270分)、個人面接	15分/人

3つの講義のいずれかに関連するテーマを設定して作成

随時別室で休憩できる

12

〔参考〕 21cp受験者の感想

- ◆ とても楽しく受験することができました。
- ◆ ●入試すごく楽しかったです。この学部で学びたいという気持ちより強まりました。
- ◆ ●とても難しかったですが、入試であることも忘れて、講義に集中しました。
- ◆ ●これからの生活にもぜひ活かしていきたい
- ◆ ●討論に参加できたことがうれしく、そして討論自体も楽しかった
- ◆ ●講義などはとても楽しく、早く大学生になりたいと思いました。
- ◆ ●受験と感けないほど明るい雰囲気で初めて会った人とも気軽に話ができ楽しかった。
- ◆ ●結果うんぬんにかかわらず21cpを受けにきて本当に良かった
- ◆ ●私は21世紀プログラムに心底惚れ込みました。
- ◆ ●私たち受験生のために、会場設営など何から何まで本当にお世話になりました。感謝します。ありがとうございました。
- ◆ ●お忙しい中、試験してくださってありがとうございました！
- ◆ ●今後も21cpを続けて欲しい。
- ◆ ●非常に自由な雰囲気でのびのびと受験にのぞむことができました。

The 21st Century Program 評価体制

1次	
委員	●●●●
志望理由書	全志願者 (90名)
調査書等	
活動歴	

2次			
講義1	講義2	講義3	
●●●	●●●	●●●	●主担当
レポート 全受験生 (80名)			
小論文 選択した受験生 (~40名)			

他に監督等
3~5名

2次					
A	B	C	D	E	
●●●	●●●	●●●	●●●	●●●	●●●
●文系、●理系、●カウンセラー/3名中1名女性					
討論 1グループ受験生 16名					
面接					

評価は、A~Dの4段階評価 (活動歴は3段階評価)。

第2次選抜 グループ分け(討論、面接)

第1次成績

A	B	C	D	E
1 → 2	3	4	5	
10	9	8	7 ← 6	
11 → 12	13	14	15	
20	19	18	17 ← 16	
21 → 22	23	24	25	
30 ← 29	28	27	26	

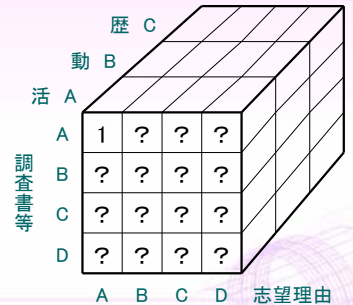
- ◆ 第1次成績を均等化
右表をベースにし、さらに
- ◆ 男女比が均等
- ◆ 現浪比が均等
- ◆ 地域性が均等
- ◆ 同一高校別グループ
になるように組換え

多次元マトリックス方式

第1次選抜の順位付け 3次元の例

1次:書類審査
4名の委員が各々
全受験生を評価

- ① 志望理由書
 - ② 調査書等
 - ③ 活動歴報告書
- を3次元で評価



評価方法

- ◆ 評価: A~D (活動歴報告書はA~C)
- ◆ 評価順位: 1位~48位:直方体のセル
- ◆ 評価(順位)点: 1位~受験者数
 - ◆ 同一順位の人数を加味した順位
- ◆ 合計評価点: 評価者ごとの順位の総和
 - ◆ 値が小さい方が高順位
- ◆ 査定
 - ◆ 第1次選抜、第2次選抜に関係した35名程度で行う
 - ◆ 討論、面接時の対応
 - ◆ D評価を付けた理由について
 - ◆

簡単なまとめと今後

- ◆ 非常に手間がかかる
 - ◆ 準備
 - ◆ 委員の選定
 - ◆ 評価方法
 - ◆
- ◆ 1次選抜と2次選抜に相関はあまりない
 - ◆ 1次選抜において優秀な受験生の取りこぼしは避けなければならない
 - ◆ 1次選抜の不合格者をよく吟味する必要がある
- ◆ 志願者を増やす方策を
 - ◆ より一層の広報